

simpler & easier : 競技規則第 14 条の検証

ELVs2008 が消化不良のまま、即ち改正の目的であるゲームを simpler に easier なものにするという成果が十分に見られないままに、南半球に続いて北半球でもシーズンを迎えようとしています。この度の改革については既に 4 編のコラムでガイダンスを進めてきたところですが、まだまだ足元が不安定なまま手探り状態が続いているようです。第 14 条を研究することによって先ず足元を固めてください。

[競技規則2008 第14条 地上にあるボール] を開いてください。

(http://www.irb.com/mm/Document/LawsRegs/0/Law14JA_4847.pdf)

競技規則というには固い文章の中で、「地上にあるボール」という格式ばらない題目になっていますが、競技の本質に係わる大変重要な条文です。

定義の第 3 項目に重要なことが書かれています。

[競技は立っているプレーヤーによってされるものである]

競技は・・・と一般的な翻訳がなされていますが、勿論ラグビーのことで、数ある他の競技と区別してラグビーと訳すべきところでしょう。オリンピックの多くの競技のほかにまだまだたくさんの競技があります。その中の一つであるラグビーの本質を確定しているものであって、他の競技との違いや特質を定義しているものです。「ラグビーは立ってするものです」と言えば 10 人中 9 人まで怪訝な顔をします。内容が理解できないからでしょう。以前に東芝が「立って」という言葉を使ったことがありましたが最近はあまりきかなくなりました。重要なことですから原文を覚えましょう。

The game is to be played by players who are on their feet.

(http://www.irb.com/mm/Document/LawsRegs/0/LAW14_4528.pdf)

この定義は Rugby is a running handling game. と一対の大切なものです。「誰でも立ってやっている」と言うのならば、地上に横たわることの多い現実を見直してください。

ラグビーは特異な格闘から感動を得られる競技であるという固定観念は進路を過つ原因になることがあります。全ての競技に感動と感激があります。オリンピックを見れば分かるでしょう。ラグビーは競技規則序文にあるように身体接触を伴うスポーツで、体力と技術のレベルがたかくなればそれだけ総力量が増し運動量が増しますが格闘力によって勝敗を決しようとするものではありません。日本国内だけでなく、ラグビーメジャー国のゲームでも power の時代といわれるように、展開・継続の意図は察しられても、それ以上に激しいぶつかり合いが必要以上に目だっているのが現状ですが、偏見・誤解は禁物です。

定義が続きます。

[プレーヤーは倒れることでボールをアンプレイブル (unplayable) にしてはならない]

A player must not make the ball unplayable by falling down.

[ボールをアンプレイブルにするプレーヤー、または倒れることによって相手チームを妨害するプレーヤーは競技の目的と精神を否定することであり、罰せられなければならない]

A player who makes the ball unplayable, or who obstructs the opposing team by falling down, is negating the purpose and spirit of the game and must be penalised.

プレーヤーは勝負に勝つために、「ここまでは良いだろう」「これ位は良いだろう」と考えて触法行為をすることが、ゲームの目的と精神を否定していることに気がつかないか、無視しているかのどちらかというのが現状です。プレーヤーも指導者もこの機会に競技の目的と精神を無視していないか反省する必要があると思います。ラグビー憲章を熟読することも必要でしょう。同時に、レフリーは競技の目的と精神の具現化にもつと自信と誇りをもって笛を吹くべきでしょう。

次に本条文です。

14.1 地上に横たわっているプレーヤー

地上に横たわっているプレーヤーは次の3つのうち1つを直ちに行わなければならない。

- ・ ボールを持って立ちあがる、または
- ・ ボールをパスする、または
- ・ ボールを手放す

直ちには『immediately』です。時間的に短い直ちにはではなく、何もすることなくですから、他のことを一切してからであってはいけないのです。

編集者注：ユニオンラグビーでは「immediately」と「at once」を混在して使用されていますが、リーグラグビーでは、immediately が一般的解釈として使われています。

<http://www.nswrl.com.au/files/rules/ARL%20International%20Laws%20of%20the%20Game%202008.pdf>

14.2 地上に横たわっているプレーヤーがしてはならないこと

(a) ボールの上、またはボールの周辺に横たわること：

プレーヤーは、ボールの上に、ボールをおおって、またはボールに近接して横たわって、相手側がボールを獲得するのを妨げてはならない。

妨げたか妨げなかったかの結果判断が明確できない場合も極希にありますが、原因発生の段階で判断し、結果を待っていて問題を複雑にすることを避ける意識が肝要です。

(b) ボールを持って地上に横たわっているプレーヤーを越えて倒れ込むこと：

プレーヤーは、ボールを持って地上に横たわっているプレーヤーの上に、またはそのようなプレーヤーを越えて故意に倒れ込んではいけません。

越えて倒れ込むのは明白に判断できるが、横たわっているプレーヤーの上に（自然な行動の流れのように）2階建てになるように横たわったり、2重壁になるようによこたわったり、斜め上であったり、複雑で判断しにくい状態が屡おこります。

(c) ボールに近接して地上に横たわっているプレーヤーを越えて倒れ込むこと：

プレーヤーはボールを中にして、またはボールに近接して地上に横たわっている2人以上のプレーヤーの上に、またはそのようなプレーヤーを越えて故意に倒れ込んではいけません。

故意であるかないかの判断は至難の技ですから、倒れこんだら罰することにしなければ解決しない問題と考えられます。

プレーヤーにとって、「しなくてはならないこと」と「してはならないこと」が明白であるのに、勝つ為に仕方がないという理由を掲げて都合の良い様に考えてプレーしているプレーヤーが多いのが現状です。

レフリーはプレーの後を追って、成り行き結果を見て判定するのが普通ですから、複雑で判定に苦しむわけです。

観客は応援チームの有利なように自己判定するのは普通のことです。都合の良いほうに考えたものです。明白な場合以外は、応援チームの都合良い方に考えて喜んだり、時には不満を持ったりするものですが、今少し simpler であれば最終的には正当な感想に間違いなく落ち着くでしょう。

ラグビーは立っているプレーヤーによってされるものである。相手に捕まって倒されたケース以外、地上に横たわることがあってはいけないという意識が芽生えればラグビーはもっと面白くなります。

タックルに関係がなく地上に転がっているボールに対し、Falling on the ballし直ちに立ち上がってプレーするのは勿論正当で有用なプレーであることは言うまでもありません。